

いばらきネットモニター 臓器提供・臓器移植についてのアンケート結果

1 調査目的

県では、臓器移植医療に関する知識の普及啓発を行っています。効果的な普及啓発を行うため、臓器移植と臓器提供意思表示等について意識調査を実施しました。

2 結果の概要

- ・ 家族などと一度でも臓器提供・臓器移植について話をしたことがある方は約6割であった。
- ・ 臓器提供に関する意思表示方法として、健康保険証や運転免許証は7割以上の認知度があったが、意思表示（記入）していると回答したのは約3割であった。
- ・ 意思表示（記入）していない理由として多かったのは、「自分の意思が決まらない、あるいは後で記入しようと思っていた」、「臓器提供に抵抗感がある」であった。また、「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」が15.2%、「家族が反対する」が5.5%であった。
- ・ 臓器提供に関する知識のうち、知っているという回答した方の割合が高かったものでも、「提供したくないという意思表示ができる」、「日本の臓器提供数は、欧米諸国と比べて少ない」が5割程度にとどまり、「全て知らない」が1割強であった。
- ・ 入院時に臓器提供に関する情報を「詳しく知りたい」、「ある程度知りたい」を合わせた【知りたい】は約7割であった。
- ・ 家族が提供意思を表示していなかった場合、男女とも、「承諾する」、「おそらく承諾する」を合わせた【承諾する】と「承諾しない」、「おそらく承諾しない」を合わせた【承諾しない】はほぼ同数であった。「わからない」は男性が約2割、女性が約3割であった。

臓器提供とは

脳死後あるいは心臓が停止した死後に、臓器移植を待つ人に臓器を提供することです。

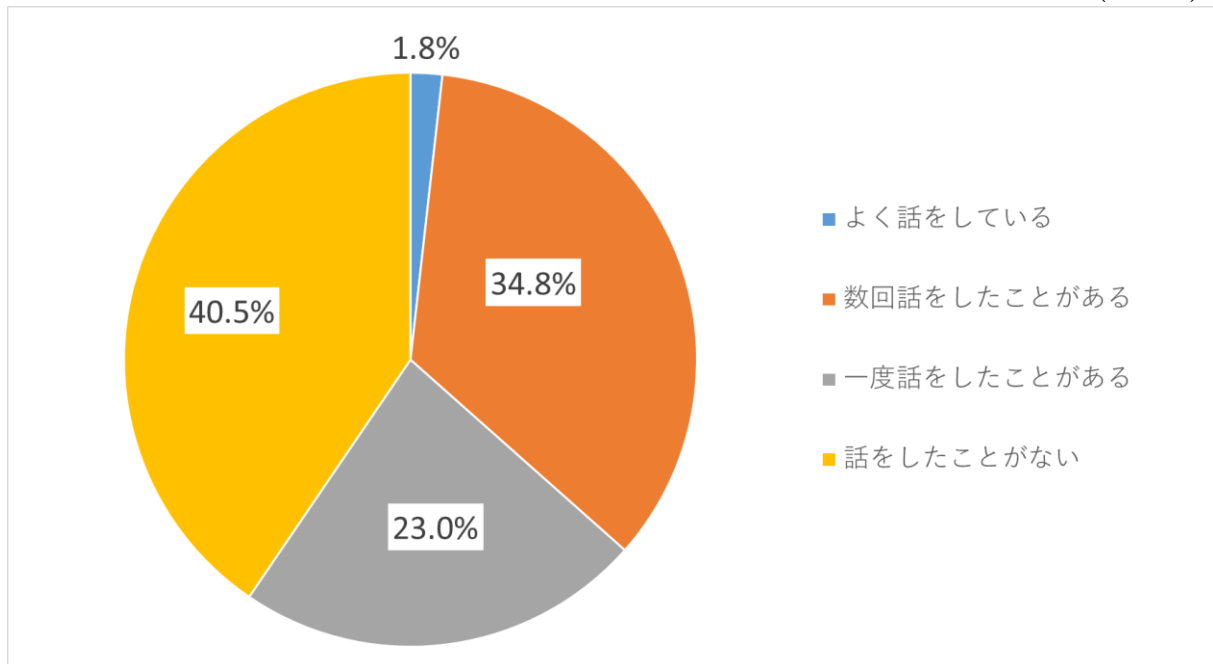
臓器移植とは

病気や事故によって臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人に、他の人の臓器を移植し、健康を回復する医療です。

【問1】（家族などと臓器提供・臓器移植について話をした経験の有無）

あなたは、これまでにご家族や親しい方と、臓器提供や臓器移植について話をしたことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=840)

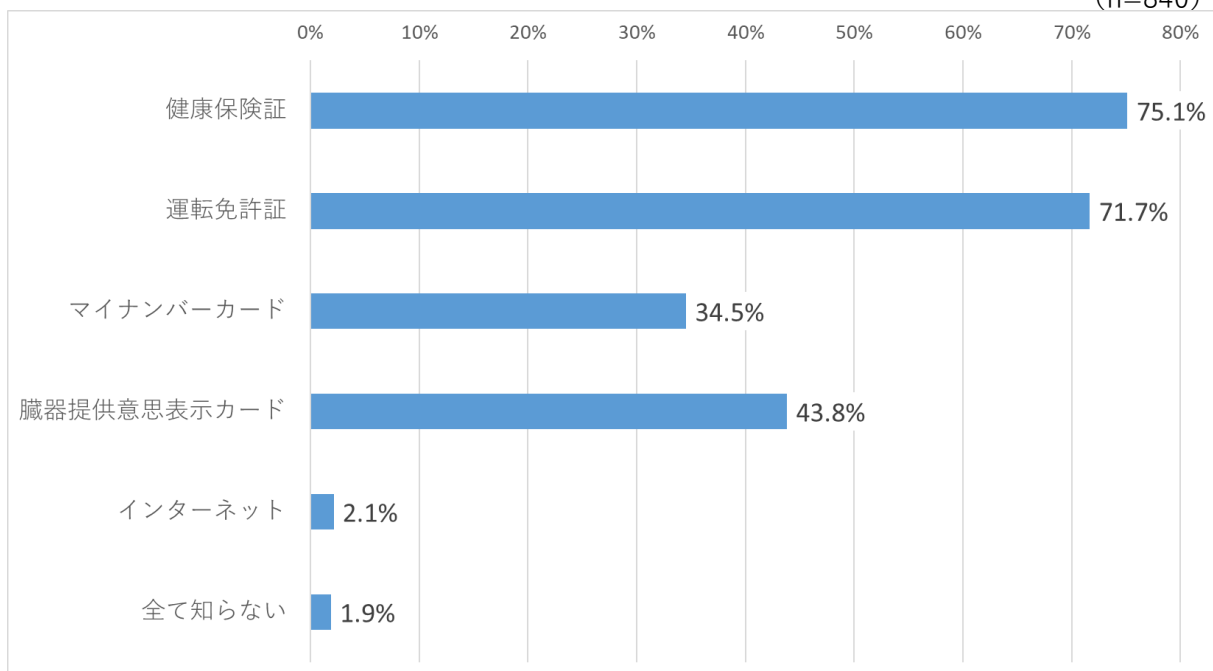


○一度でも話をしたことがある方が約6割、「話をしたことがない」が約4割であった。

【問2】（臓器提供に関する意思表示方法の認知度）

あなたは、以下の臓器を提供する・しないについての意思表示方法のうち、知っているものがありますか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=840)

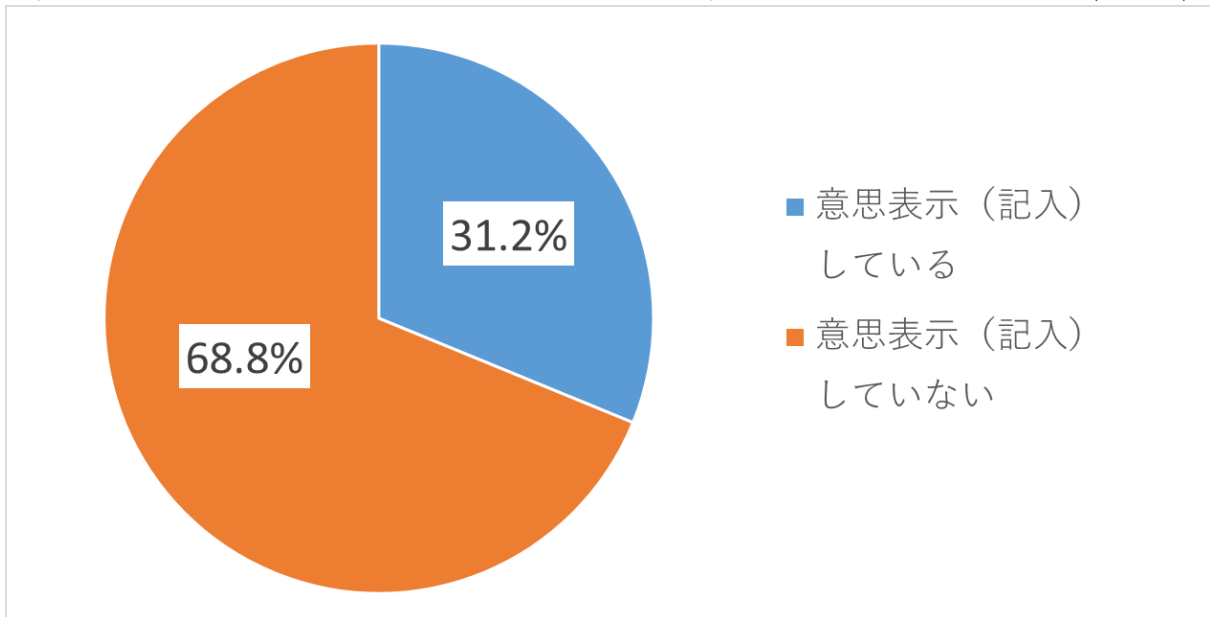


○「健康保険証の裏面の臓器提供意思表示欄」及び「運転免許証の裏面の臓器提供意思表示欄」の認知度は7割を超えていた。

○「インターネットの臓器提供意思登録システム」の認知度は2.1%であった。

【問3】（臓器提供に関する意思表示）

あなたは、問2のいずれかの方法で、臓器提供をする・しないといった意思表示をしていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。（n=840）

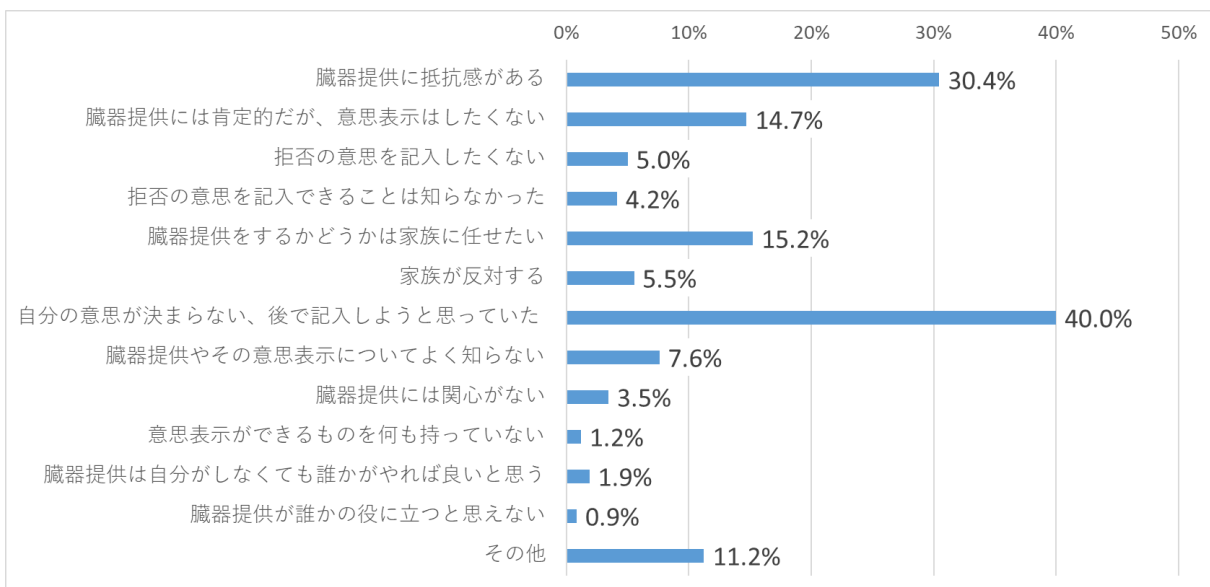


○「意思表示（記入）している」は約3割、「意思表示（記入）していない」が約7割であった。

【問4】（臓器提供の意思表示をしない理由）

（問3で「意思表示（記入）していない」を選択した方へ）

あなたが、臓器提供の意思表示をしていない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。（n=578）



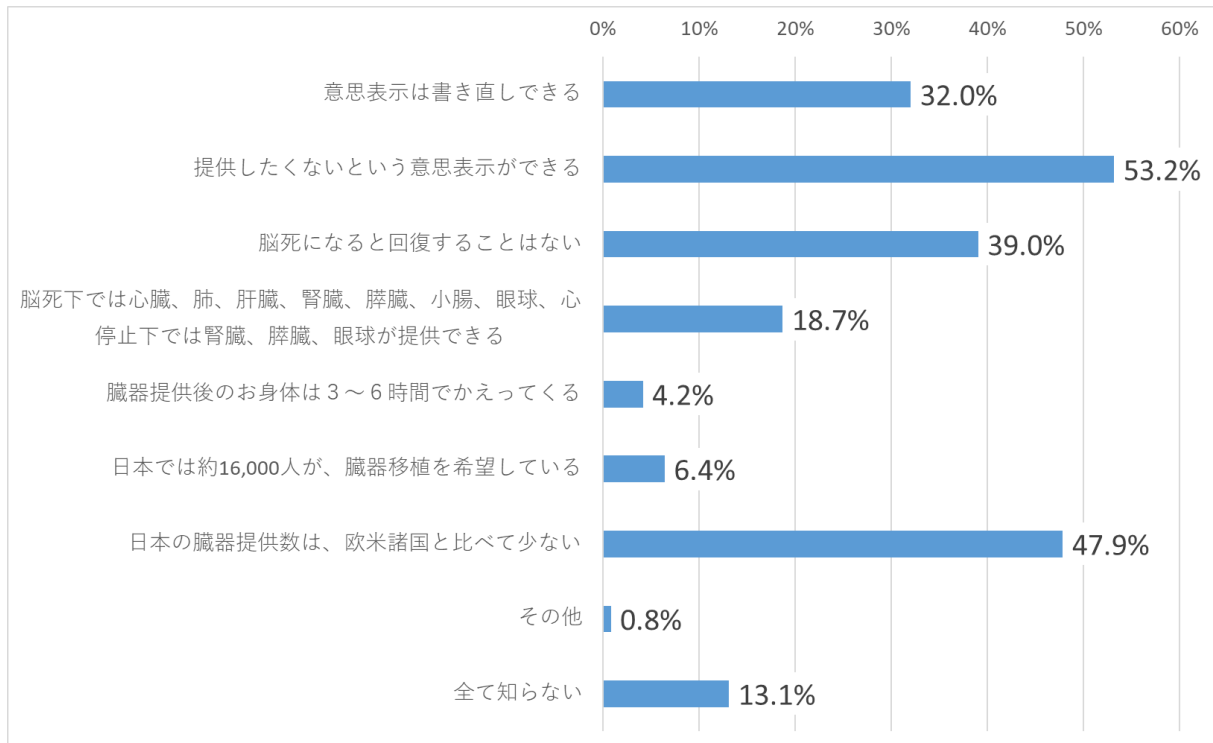
○問3で意思を表示（記入）していないと答えた方にその理由を聞いたところ、「自分の意思が決まらないから、あるいは後で記入しようと思っていたから」が40%、「臓器提供に抵抗感があるから」が30.4%、「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」が15.2%であった。

○「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」が15.2%、「家族が反対する」が5.5%と、家族の考えを理由とする回答もあった。

○「その他」（11.2%）の理由として、年齢や持病により提供できないと思うから、（インターネット以外の表示方法だと）他人に見られてしまうから、という意見もあった（計65件）。

【問5】（臓器提供に関する知識）

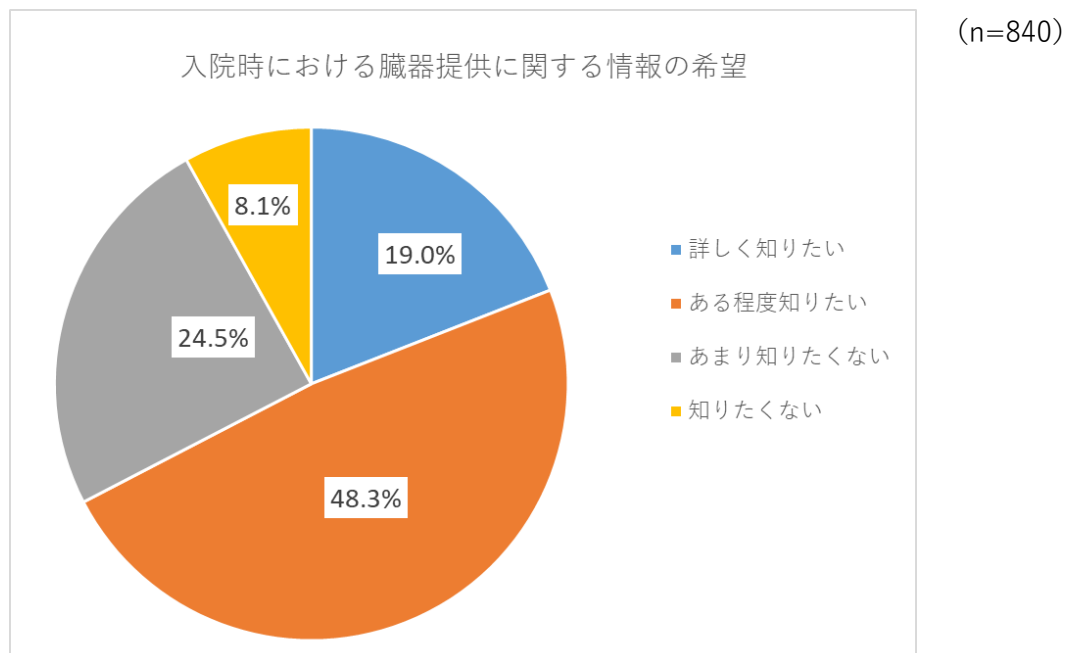
あなたが、臓器提供について知っていることは何ですか。次の中から、あてはまるものを全て選んでください。
(n=840)



- 「提供したくないという意思表示を行うことができる」は53.2%、「日本の臓器提供数は、欧米諸国と比べて少ない」は47.9%であった。
- 「全て知らない」は13.1%であった。

【問6】（入院時における臓器提供に関する情報の希望）

一部の病院では、入院した患者全員に対して、パンフレットの配布などの臓器提供に関する情報提供を行っています。あなたは、あなたご自身あるいはご家族が入院した際に臓器提供に関する情報をどの程度知りたいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

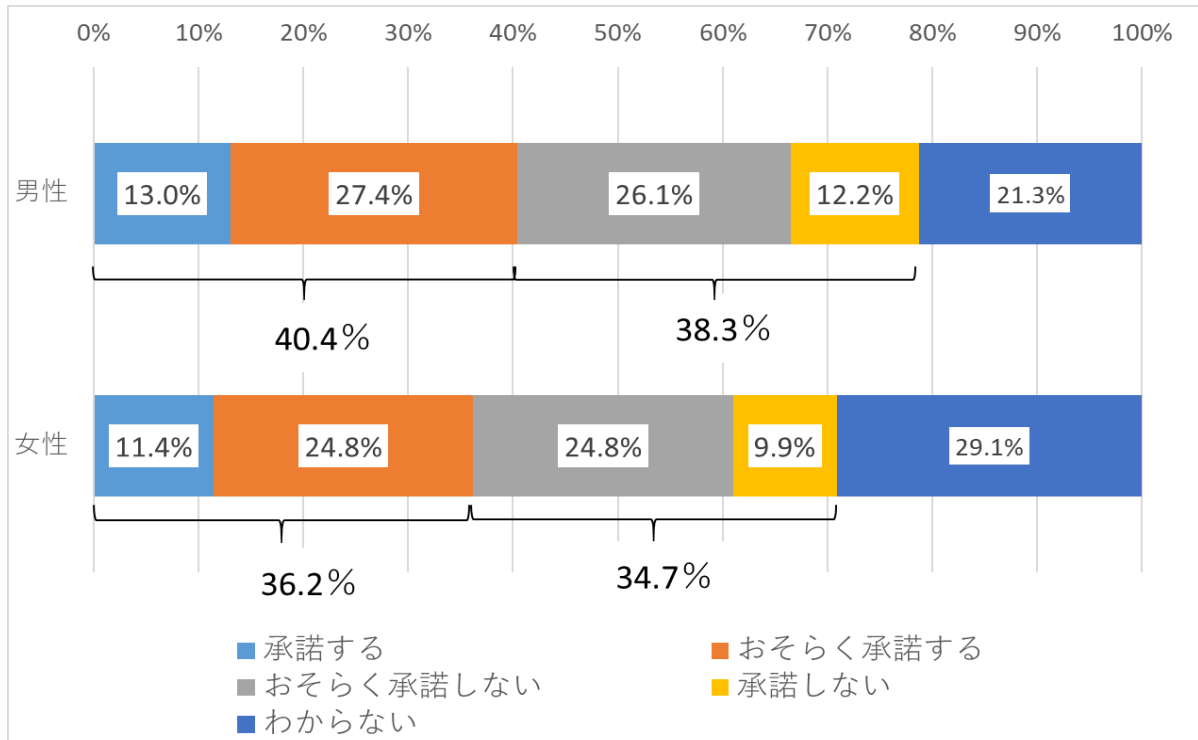


- 「詳しく知りたい」、「ある程度知りたい」を合わせた【知りたい】は約7割であった。

【問7】（家族が提供意思を表示していなかった場合の臓器提供の承諾）

仮に、あなたのご家族が脳死と判定された場合、または心臓が停止し死亡と判断された場合に、その方が臓器提供について意思表示をしていなかったときは、臓器提供を承諾するかどうかはご家族の総意で決まります。あなたは、ご家族の臓器提供を承諾しますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=840)



- 「承諾する」、「おそらく承諾する」を合わせた【承諾する】が男性 40.4%、女性 36.2%、「承諾しない」、「おそらく承諾しない」を合わせた【承諾しない】が男性 38.3%、女性 34.7%と、男女とも、「承諾する」、「おそらく承諾する」を合わせた【承諾する】と「承諾しない」、「おそらく承諾しない」を合わせた【承諾しない】はほぼ同数となった。
- 「わからない」は男性 21.3%、女性 29.1%であった。

【問8】（自由記述）

その他、「臓器提供」や「臓器移植」についてのご意見等がございましたら、ご自由に記入してください（200文字以内）。

- ・ドラマなどからの情報ですが、臓器提供を待ってる人がいるのは知っています。ただ臓器移植について情報を目にすることは少なく、問7のような状況になった時短い時間で承諾する人は少ないのではないかなと思います。実際私も今の知識だったら承諾出来ないと思います。メスを入れることに抵抗を感じます。臓器移植の大切さはわかっていますが、もっとイメージが変わるような情報提供の仕方が必要なかと思います。
- ・この問題を現実として考えなければならない事態になった時は、パニックになり、冷静に考えることが出来ないと思う。自分の気持ちに寄り添って、ケアしてくれる第三者の制度はあるのだろうか。どの様な結論を出したとしても、その時だけで無く、しばらくの間、きっと心は落ち着かないとおもう。臓器提供、移植と併せて、ケア制度もアピールして欲しい。
- ・本当は臓器提供しますと言える事が良いのだろうと思うけれど、家族の臓器提供となると複雑に思ってしまう。その時の状況で色々考え方が変わって行くだろうと思います。
- ・臓器提供の必要性は理解できるが、身近で十分な議論、意見を交わせる環境がない。
- ・自分自身の臓器であれば積極的に提供できると思うが、家族や大切なひとの臓器の場合、ためらいや悩みは発生すると思う。家族や大切なひとが、臓器だけでも誰かの体の中で生き続けると考えれば、最終的には提供に同意すると思う。
- ・臓器提供について、よくわかっていないことがありました。今回の調査で少しだけ知識を得られました。
- ・世代的に、臓器提供には抵抗感があります。子供の頃から、必要性や倫理観などを教えてもらえれば、もう少し前向きに捉えることができたように思います。
- ・実際に提供した方、された方のお話を聞いてみたい
- ・情報が少ないために正しく理解できていないと思う
- ・脳死はどのようになされるのか。脳死を判定する医師は信用できるのか。何人の医師でなされるのか。等知りたいと思う。臓器提供可能者の年齢等の条件も知りたいと思う。
- ・提供する側の意思表示の話が先行していて、提供を待つ側の現実について日頃から触れる機会や情報が少ないと感じます。
- ・自分にとってはあまり身近に感じてはいないのですが、当事者にとってはとても急を要するし、重要なことだと思います。どれだけじぶんごととして考えられるかが課題だと思われます。
- ・話には聞いたことがあるけど、やっぱり難しい問題なので、答えは出ません。
- ・既往症によっては臓器提供できないと聞いたことがあります。提供を勧めるだけでなく、どのような場合できないか、ということも周知してほしいと思っています。
- ・臓器提供について、私自身がもし健康体であれば提供したいかもしれませんが。実際病気で苦しんでいる多くの患者さんを病院で目を見ると尚更必要性に思いはあります。今後このような問題についてもっと茨城県全体で話し合っていく機会を作ってください。

など 276 件のご意見がありました。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・ 臓器提供に関する知識のうち、知っていると答えた方の割合が最も高かったものでも53.2%にとどまり、全て知らないと答えた方は13.1%であった。また、ご意見の中で、年齢や持病などで臓器提供が可能かどうかわからない、など臓器提供・臓器移植に関して知られていないことが多いことがわかった。加えて、話を聞く機会がない、若い時に学校で聞きたい、などのご意見もあった。県内において、民間団体が児童生徒を対象に講演会を実施している例があり、そのような講演会の周知を実施し、活用を検討する。
- ・ 臓器提供の意思表示をしない理由として、「臓器提供をするかどうかは家族に任せたい」と答えた方が15.2%、「家族が反対する」が5.5%と、家族の考えを上げる方がいる一方、家族が提供意思を表示していなかった場合、「承諾する」、「おそらく承諾する」を合わせた【承諾する】と「承諾しない」、「おそらく承諾しない」を合わせた【承諾しない】がほぼ同数、また男性の約2割、女性の約3割が「わからない」と回答している。自分はいいが家族のことになると考えてしまうという意見も多い。家族などと一度でも臓器提供・臓器移植について話をしたことがある方は約6割、話したことがない方は約4割となっており、家族や大切な人と話し合うという意識醸成を図っていく。
- ・ 日本では、平成9年7月に臓器の移植に関する法律が施行されてから26年以上が経過しているが、今でも、臓器提供・臓器移植に抵抗感を示す方が少なくないことに配慮しながら、SNS等を活用するなど効果的な啓発活動を実施していく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年12月18日（月）～令和5年12月31日（日）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,240名

回収率：67.7%（回収数840名）

回答者の属性：以下の通り。

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		840	100.0
地域別	県北	62	7.4
	県央	250	29.8
	鹿行	45	5.4
	県南	270	32.1
	県西	64	7.6
	県外	149	17.7
性別	男性	376	44.8
	女性	464	55.2
年齢別	16～19歳	9	1.1
	20～29歳	31	3.7
	30～39歳	114	13.6
	40～49歳	223	26.5
	50～59歳	240	28.6
	60～69歳	133	15.8
	70歳以上	90	10.7
職業別	自営業	70	8.3
	会社員	308	36.7
	団体職員	40	4.8
	公務員	36	4.3
	主婦・主夫	197	23.5
	学生	18	2.1
	無職	97	11.5
	その他	74	8.8

(2) 担当課

茨城県保健医療部医療局薬務課（企画調整グループ）

電話：029-301-3384

E-mail：yakumu@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。